

シグマ委員会  
3年度第4回運営委員会議事録（案）

日 時 1991年12月12日（木） 13:30～17:15  
場 所 日本原子力研究所 本部第3会議室  
出席者 石井（原研、委員長）、北沢（東工大）、瑞慶覧（日立エネ研）、中嶋（法政大）、  
吉田（東芝）、若林（動燃）、菊池、前川、長谷川、水本（原研）  
幹 事：中島、中川（原研）  
オブザーバー：松延、山野（住友原工）、岸田（CRC）、五十嵐（NEDAC）、  
岡本（原産）

配布資料

1. 平成3年度第3回運営委員会議事録（案）
2. 第29回 NEANDC 会合報告
3. IAEA Research Coordination Meeting on "Activation Cross Sections for the Generation of Long-Lived Radionuclides of Importance in Fusion Reactor Technology" に関する資料
4. IAEA Advisory Group Meeting on FENDL-2 and Associated Benchmark Calculations に関する資料
5. 「高エネルギー核データ専門家会議」報告
6. 1991年核データ研究会報告
7. JENDL-3 修正のためのWG
8. Draft Programme of NEANDC Specialists' Meeting on Fission Product Nuclear Data
9. 評価用データベースWG 今年度作業と来年度予定
10. FP核データワーキンググループ活動報告
11. 核データ評価国際協力WG 1991年度第1回会合議事録（案）
12. 原子力学会特別会合（案）
13. Shielding 積分テストWG 1991年度活動と 1992年度活動計画（案）

議 事

- I. 前回議事録確認  
前回の議事録（配布資料1）を確認した。
- II. 報告事項
  1. 第29回 NEANDC 会合報告

菊池氏が配布資料 2により、10月21日～25日にカールスルーエ研究所（ドイツ）で開かれた標記会合について報告した。

会合では、NEANSCへのステートメントを採択した。その中では、今までの NEANDC の活動を NSC に引き継ぐために、今後考慮すべき核データ適用分野、NSC への要望などがまとめられた。この他、各国の測定及び評価に関する活動及び国際ネットワークの報告、小委員会の報告があった。測定では CBNM と日本の活動が目立つ。会議小委員会では 1992年5月に原研で行う「核分裂生成物核データ専門家会合」の準備状況を報告した。

統いて、核融合に関するトピカルミーティングが開かれ 20 件の発表があった。日本からは JENDL Fusion File と原研の FNS での測定結果の報告をした。

## 2. IAEA 主催 FENDL に関する助言グループ会合などの会合報告

前川氏が配布資料 3により、11月11日と12日に IAEA で開かれた「IAEA Research Co-ordination Meeting on "Activation Cross Sections for the Generation of Long-Lived Radionuclides of Importance in Fusion Reactor Technology"」について報告した。この会合には、日本からは前川氏の他に池田氏（原研）、神田氏（九大）が参加した。

CRP に参加している研究機関からはそれぞれの測定結果が出そろってきている。測定結果を比べると、 $^{187}\text{Re}(n, 2n)^{186}\text{mRe}$  や  $^{63}\text{Cu}(n, p)^{63}\text{Ni}$  などで違いが大きい。計算の方では、山室氏や Obninsk の計算値が測定値と良く一致している。次回は、1993年春に米国で行う。

統いて、前川氏が配布資料 4により、11月18日～22日に IAEA で開かれた「IAEA Advisory Group Meeting on FENDL-2 and Associated Benchmark Calculations」について報告し、中島氏が補足説明をした。この会議への日本からの出席者は前川、中島、神田、住田の 4氏であった。会議では、口頭発表の後、5つの Working Group を作り、個々の問題を討議した。WG 1 では、FENDL-2 に入れるデータについて議論し、JENDL-3 から17核種が候補に挙がった。FENDL-1.1 は 1993年6月に配付される予定である。FENDL-1.1 のベンチマークテストは 1993年から 1994年にかけて行うが、どこがやるかはまだ明確になっていない。

## 3. 高エネルギー核データ専門家会議について

中島氏が配布資料 5により10月3日、4日に原研東海研で行った標記会合について報告した。参加者は 50名、18件の報告があった。

この報告に対して、石井委員長より「高エネルギーの分野はデータを編集する以前の領域であり、データを評価しファイルを作成することを前面に出さないで、研究指向の新テーマとして考えた方が良いのではないか」との指摘があり、議論した。

## 4. 1991 年核データ研究会について

11月28日と29日に原研東海研で行った「1991年核データ研究会」について、配布資料 6 により、中川氏が報告した。

参加者は 126名で、国外からは 4名（タイの Vilaithong 氏、韓国の金氏、フランスの

Derrien 氏、東北大学生の Soewarsono さん) の参加があった。発表は、口頭発表 14件、ポスター発表 23件であった。特に最近の核データ研究会でのポスター発表は研究の活性化に重要な役割を果たしていると評価できる。昨年の研究会の反省事項であったバスの配車については今回はうまくいった。

今回口頭発表で使用したレザーポインターよりは従来の棒のポインターの方が良いとの指摘があった。

### 5. JENDL-3 データ修正WGについて

JENDL-3.2 作成のために次の 2つのWGを核データ専門部会の中に発足させ、11月14日に合同会合を開いたことを中川氏が配布資料 7により報告した。

#### 重核データ修正WG

菊池 康之（原研、グループリーダー）、松延 廣幸（住友原工）、川合 将義（東芝）、神田 幸則（九大）、大澤 孝明（近畿大）、竹田 敏一（阪大）、高野 秀機、中島 豊、長谷川 明、中川 庸雄（原研）

#### ガンマ線生成データ修正WG

五十嵐 信一（NEDAC、グループリーダー）、北沢 日出男、井頭 政之（東工大）、浅見 哲夫（NEDAC）、肥田 和毅（東芝）、水本 元治（原研）

なお、「ガンマ線生成データ修正WGは問題点の指摘をするだけにしたい」との発言があったが、「ステータスをレビューし、必要があれば JENDL-3 の評価担当者もWGに入ってもらって、来年中に作業を完成させる」ことで了承した。

この他、「JENDL-3.1 のどこを修正するのかを明確にして欲しい」、「JENDL-3 のベンチマークテストをしたいのでなるべく早く final version を出して欲しい」などの意見が出された。

### III. 審議事項

#### 1. 原子力学会合同特別会合のテーマについて

北沢氏がテーマの案（配布資料12）を説明し、議論した。その結果、

(1) 「放射性廃棄物の消滅処理」（動燃における消滅処理の研究）

(動燃) 小無 健司氏

(2) 「放射性廃棄物の核変換処理」

(理研) 鄭農 靖之氏

(3) 「原子炉崩壊熱基準に関して」（アナウンス程度）

(京大) 木村 逸郎氏

と、することにした。この他に、原研のオメガ計画の話も必要だとの意見もあったが、「網羅的だとおもしろくない。必要なら次回に話をしてもうことも可能」と言うことで見送った。最終的なプログラムは北沢氏が調整し決定する事とした。

## 2. 委員会人事

金子 義彦氏（原研）の代わりの運営委員は、炉物理委員会委員長が決まった時点で、その方になって頂くことにした。来年度の本委員に関しては、交代の希望が出ている関 雄次氏（MAPI）と、懸案になっている宮原 明氏（帝京大）の後任を、事務局で連絡をとり決定することにした。

## 3. NEANDC FP 核データ専門家会議のプログラムについて

菊池氏が1992年 5月25日～27日に原研東海研で行う予定の標記会合のプログラム（配布資料8）について現状を報告した。今までのところ、invited speakers の大部分は“OK”との返事をよこしている。

## 4. ワーキンググループ活動（今年度のまとめと来年度計画）

### 評価用データベースWG

中川氏が配布資料 9を説明した。

今年度は、予定を含めて 3回の会合を開き、理論計算用パラメータベース（EVLDF）と統合核データ評価システム（INDES）の作成、 $^{56}\text{Fe}(n,p)$  断面積の共分散の検討を行った。

INDES は既に数個の理論計算プログラムの JCL や入力データを作成できる様になっており、その実例を示した。来年度も引き続きこれらの作業を行うと共に、核データ評価のためのエキスパートシステムの作成を始める予定である。

### F P 核データ WG

中川氏が川合氏の代わりに配布資料 10を説明した。

今年度は 8回の会合を開いて、主に JENDL-3 FP データファイルの積分テストと評価レポートの作成を行った。JENDL-3 FP データファイルについては、ユーリッヒ核データ国際会議で発表し、更に、原子力学会欧文誌に投稿した。来年度は、非弾性散乱断面積の再評価、積分テスト、レポート作成等を行う。また、F P 核データ専門家会議および核データ評価国際協力関連の作業も行う。

### 核データ評価国際協力WG

菊池氏が第 1回会合の議事録（配布資料 11）を説明した。来年度もサブグループの国内活動を助けるために本WG を続ける。

## Shielding 積分テストWG

山野氏が配布資料 13を説明した。

今年度は 4回の会合と、報告書作成のためのサブグループ会合を開き、JENDL-3 の積分テスト報告書（JAERI レポート）の作成、JENDL-3 二次ガンマ線ベンチマーク実験の解析、加速器遮蔽の検討を行った。来年度は、二次ガンマ線ベンチマーク解析を主にし、平行して加速器遮蔽の検討を続ける。また、上義氏（東大核研）、田中 進氏（原研）をメンバーに加えたい。

二次ガンマ線のベンチマークテストを行うなら、原研FNS からも1人加えてもらいたいと前川氏が述べた。

### 5. その他

来週、パリで行われる NEANSC の会合に朝岡氏（原研）と菊池氏が出席することを、菊池氏が報告した。

### IV. その他

次回は、3月13日（金）とする。（後日、原研の会議室の都合で 3月12日（木）に変更になった）

### 宿題事項

No	担当者	内 容	期 限
1	北沢	原子力学会（核データ・炉物理）合同特別会合のプログラムを調整し決定する。	至 急